

【実践取組・確認シート】

実践取組確認シートの活用場面について

ソーシャルワーカーは、相談支援従事者（ソーシャルワーカー）の人材育成指標の各項目の内容を確認し、実践取組確認シートにて、第3者と自身の実践状況や取組を確認・共有していくことで、自己の専門性の段階・成長過程を自覚できるとともに、次の目標を明確にして、新しいものを取り入れるなどの効果が生まれます。

実践取組確認シートはセルフチェックだけではなく、第3者と自身の実践状況や取組を確認・共有していくことにより、さらに効果的に働きます。組織・事業所内のOJTで活用するのはもちろんのこと、区域においては基幹相談支援センターの事業所訪問、障害者自立支援協議会の相談支援部会、主任相談支援専門員によるスーパーバイズの中で、市域においては相談支援専門員の現任研修での活用を想定しています。

【組織・事業所内のOJT】



【基幹相談支援センターの事業所訪問】



【自立支援協議会・現任研修など】



専門能力（知識・技術）

個人・家族支援（ケアマネジメント）

自分自身で完結するのではなく、誰かと確認をしていきましょう

ビジョンに立ち返ってみましょう

受理面接・事前評価（インタビュー・アセスメント）

- ☐ 面接技術を活用し、対象者と信頼関係（ラポール）を形成している（対象者の思いを受け止め、トラブルになっていないか）
- ☐ 障害特性、発達段階、ライフステージ等の専門知識を踏まえ、対象者を総合的に理解している
- ☐ リアルニーズ（対象者が感じているニーズ＋ソーシャルワーカーが捉えたニーズ）を捉えている
- ☐ 適切に支援状況を記録し、説明責任を果たしている

◎必要なもの
ソーシャルワークの考え方に基づく専門的な面接技術

ビジョン
25Pへ

◎必要なもの
幅広い専門知識
常に新しい知識を得られるような努力

対象者の背景にある想いを汲み取れているか 解決すべき課題は何か

ビジョン
26～29Pへ

◎記録の充実で求められること
・意思決定支援の実施・支援の一貫性・継続性の担保・説明責任

よりよい実践につながるような取組を書いてみましょう

やってきた取組・工夫している取組（例 相談支援研修Ⅱに参加し、記録の書き方について学び、アセスメント様式を見直した）

やってみたい取組（例 自立支援協議会の相談部会での事例検討で事例提供者になる）

よい取組をしていたら相談員同士で共有しませんか？

ビジョン
24～25Pへ

価値と倫理

専門能力（知識・技術）

個人・家族支援（ケアマネジメント）

目標設定・計画作成（プランニング）

- ☐ 法や制度、インフォーマルなサービス等の幅広い社会資源を活用している
- ☐ 個別支援会議の開催・運営等により、チーム力を高め、チーム支援に発展している
- ☐ 対象者とともに、リアルニーズに基づく支援計画を適切に作成し、説明している

◎必要なもの（こと）
・関係する法令・制度の知識
・幅広い分野（保健・医療まちづくり）との連携

ビジョン
29～31Pへ

・支援の方向性を共有し、チーム力の醸成
・専門性を活かした多様な視点から、リアルニーズへの対応が可能となる。

・リアルニーズに明確な根拠はあるか。
・支援計画は「支援者主体」ではなく、「本人主体」で作成する。

よりよい実践につながるような取組を書いてみましょう

やってきた取組・工夫している取組

やってみたい取組

ビジョン
24～25Pへ

価値と倫理

専門能力（知識・技術）

個人・家族支援（ケアマネジメント）

介入（インターベンション）

☐

必要に応じて適切な介入をしている

◎必要なこと

・支援チームの一員としての役割を発揮するためにも、ソーシャルワークの知識・技法を適切に用いる。

☐

適切なリスクマネジメント、緊急対応をしている

◎必要なこと

・想定外のリスクが生じた際にも支援チームが機能するような日常的な連携

ビジョン
31～32Pへ

よりよい実践につながるような取組を書いてみましょう

やってきた取組・工夫している取組

やってみたい取組

ビジョン
24～25Pへ

価値と倫理

専門能力（知識・技術）

個人・家族支援（ケアマネジメント）

状況確認（モニタリング）

☐

適切に支援の状況・効果を確認し、その結果を説明している

◎必要なこと

対象者の変化がある場合は、支援計画の見直しを行う。変化に対しての根拠（エビデンス）を明確にする

事後評価（エバリュエーション）

☐

生活全体の状況を捉え、終結の要否を適切に判断している

◎必要なこと

・支援計画に記された目標の達成を具体的にはかる指標をあらかじめ定める。
・指標をチーム全体で個別支援会議等の場で確認する。

終結（ターミネーション）

☐

適切に支援を終了している

◎必要なこと

・支援の終結後、対象者に、新たなニーズがうまれた際に備え、対象者自身が相談できる場等を伝えるなどの配慮

ビジョン
32～34Pへ

よりよい実践につながるような取組を書いてみましょう

やってきた取組・工夫している取組

やってみたい取組

ビジョン
24～25Pへ

価値と倫理

専門能力（知識・技術）

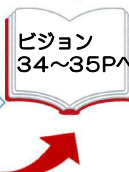
地域づくり（地域マネジメント）

☐ 有効なネットワークを構築している

◎必要なこと
・地域の社会資源に精通すること
・福祉分野に限らず、複数の社会資源を本人のニーズに適合させていく

☐ 地域ニーズを適切に把握し、働きかけをしている

◎必要なこと
・地域のニーズを客観化・社会化すること
・社会資源の開発や既存の資源の改編などを区障害者自立支援協議会での課題提起すること
・関係機関団体等による新たな資源開発等を促していくこと



よりよい実践につながるような取組を書いてみましょう

やってきた取組・工夫している取組

やってみたい取組

専門能力（知識・技術）

セルフ・チームマネジメント

☐ 自己管理している

自己管理能力が高い人
＝自己認知と自己コントロールが
できている人

☐ 自己研鑽に取り組んでいる

◎必要なこと
制度・サービスなどの施策、支援の方法や
ツールの進化についてのスキルアップ
（研修・事例検討会等の参加）

☐ メンバーシップ・リーダーシップを発揮している

◎必要なこと
目的達成のために協働関係を構築してい
く

☐ 地域（事業所内外）で人材育成を実施している

◎実施効果
・チーム力、組織の現場力向上への循環
・地域の相談支援の力量が向上する



よりよい実践につながるような取組を書いてみましょう

やってきた取組・工夫している取組

やってみたい取組

資料2

横浜版 障害福祉分野における相談支援従事者（ソーシャルワーカー）の人材育成指標

《理念》横浜市が目指すもの ※横浜市第4期障害者プランより

障害のある人もない人も、誰もが人格と個性を尊重し合いながら、地域共生社会の一員として、自らの意思により自分らしく生きることがしているまちヨコハマを目指す

《前提》障害者ケアマネジメント従事者に求められる資質

社会福祉援助技術などの各種援助技術を機能的に統合したソーシャルワークの実践に努める必要があり、以下の資質が求められる
①信頼関係を形成する力 ②専門的面接技術 ③ニーズを探し出すアセスメント力 ④サービスの知識や体験的理解力 ⑤社会資源の改善及び開発に取り組む姿勢 ⑥支援ネットワークの形成力
⑦チームアプローチを展開する力（引用：障害者ケアガイドライン 平成14年厚生労働省）

《目指す姿》横浜市におけるソーシャルワーカー像 ※ステップ3までの能力を獲得した姿

① ソーシャルワーカーとしての「価値・倫理」、「知識」、「技術」の基盤となる力に基づく「本人を中心とした支援」を通じて、障害のある人が地域で安心して暮らせる共生社会の実現に取り組んでいる
② 自己の成長だけではなく、他のソーシャルワーカーの育成、地域や組織等への働きかけを通じて、社会全体の推進力の向上を図っている

		ステップ	ステップ1	ステップ2	ステップ3	
			・基本を理解し、サポートを受けながら、「本人を中心とした支援」を実践している	・自立して「本人を中心とした支援」を実践している ・チームで「本人を中心とした支援」を実践している	・「本人を中心とした支援」の実現・向上のために、人材を育成している ・共生社会の実現に向けて、地域や組織等に働きかけがしている	
ソーシャルワーカーの専門性						
価値・倫理			□ 対象者をかけがえのない存在として尊重し、権利を擁護している（人間の尊厳・権利擁護） □ ソーシャルワーカーの職業倫理を理解し、それに基づいて実践している □ 対象者の思いを受け止め、信頼関係を構築するとともに、意思決定・自己決定を支援している（本人を中心とした価値） □ 全ての人に対して、特定の方向に偏ることなく、支援している（中立性・公平性の保持） □ 常に自己覚知を回り、支援者としての自らの課題を把握し、それに取り組んでいる			
ステップ2の到達像（＝基準）						
個人・家族支援（ケアマネジメント）	受理面接・事前評価（インタビュー・アセスメント）	面接技術を活用し、対象者と信頼関係（ラポール）を形成している	□ 信頼関係（ラポール）の必要性を理解し、意識している □ 面接技術（傾聴反応、積極介入）を理解し、意識している □ バスディックの7原則を理解し、意識している（①個別化の原則、②受容、③意図的な感情表出、④統御された情緒的関与、⑤非審判的態度、⑥自己決定、⑦秘密保持） □ 適切な面接場面設定を理解し、意識している（時間枠の設定、座席の配置、障害特性への配慮等）	□ 面接技術を柔軟に活用して、対象者に働きかけている □ 対象者を個人としてとらえ、偏見や先入観を持たずに、その人を理解している（①個別化の原則） □ 対象者を否定せず、ありのままを受け止めている（②受容） □ 対象者の感情を大切にし、表現しているように働きかけている（③意図的な感情表出） □ 支援者自身の感情を自覚し、判断したうえで、対象者に働きかけている（④統御された情緒的関与） □ 対象者のことを一方的に評価（判断）せずに、中立な姿勢を示している（⑤非審判的態度） □ 対象者の最善の利益を念頭に、自己決定を促し、尊重している（⑥自己決定） □ 書類の管理、相談対応時の配慮等により、秘密を保持している（⑦秘密保持） □ 適切な面接場面を設定している □ 複雑な課題を抱える対象者にも、個々の状況に合わせて対応している	□ 相談支援従事者や関係機関等が対象者と信頼関係（ラポール）を形成しているように、助言・指導している	
		障害特性、発達段階、ライフステージ等の専門知識を踏まえ、対象者を総合的に理解している	□ 対象者を一側面のみで捉えるのではなく、障害特性や社会的状況等を含め総合的に捉えることの必要性を理解し、意識している □ 障害特性、発達、医療的ケア、ライフステージ、人間行動等を理解し、意識している □ 対象者の心身の状態、日常生活の様子、価値観等の個人因子と、家族、住環境、社会資源等の環境因子の相互関係から、ICFの視点に基づいて、対象者を理解している □ 過去、現在、未来の連続体として、対象者を理解している □ 対象者個人と環境のストレングスを理解している	□ 専門知識を踏まえ、対象者を総合的に理解している	□ 相談支援従事者や関係機関等が対象者を総合的に理解しているように、助言・指導している	
		リアルニーズを捉え、説明している	□ ニーズの構造について理解し、意識している □ リアルニーズを導き出すために必要な情報を収集している □ リアルニーズを導き出すための整理がしている □ 他の支援者が捉えたアセスメントの共有の必要性を理解している	□ 収集した情報を基にリアルニーズを導き出すことがしている □ 面接等を通じて、対象者にリアルニーズへの気づきを促すことがしている □ リアルニーズを導き出した過程を示し、客観性を担保するとともに説明している □ 他の支援者が捉えたアセスメントを活用している	□ 相談支援従事者や関係機関等がリアルニーズを捉え、客観的に説明しているように、助言・指導している	
		適切に支援状況を記録し、説明責任を果たしている	□ 記録の必要性を理解し、意識している □ 情報開示を想定し、支援の根拠として記録を構造的にわかりやすくまとめている	□ 日ごろの支援の向上のために、記録を活用している □ 情報開示等の要請にも応えられるよう、記録を整理している	□ 相談支援従事者や関係機関等が適切に支援状況を記録し、説明責任を果たせるように、助言・指導している □ 組織として質の高い支援ができるように、職場内で記録を活用している体制を整える	
	目標設定・計画作成（プランニング）	法や制度、インフォーマルなサービス等の幅広い社会資源を活用している	□ フォーマル、インフォーマルな社会資源の必要性を理解し、意識している □ 本人をとりまく家族や支援者、地域住民なども社会資源に含まれることを理解している □ 各種法や制度、インフォーマルサービス等幅広い社会資源を理解している（障害福祉、権利擁護、高齢者福祉、児童福祉等） □ ニーズに合わせた社会資源に関する情報を収集し、提供している	□ 制度やインフォーマルサービス等の利用上のメリット・デメリットを踏まえて、活用している □ 対象者にわかりやすく情報を提供している □ 相談から把握した情報を整理し、今後の相談に活用するため、職場内外で共有している	□ 相談支援従事者や関係機関等が幅広い社会資源を収集・活用しているように、助言・指導している □ 状況や課題に適した形で社会資源を活用している体制を整える	
		個別支援会議の開催・運営等により、チーム力を高め、チーム支援に発展している	□ チーム支援の必要性を理解し、意識している □ 個別支援会議の構造（目的、空間設定、個人情報の取扱、メンバーの役割等）を理解し、意識している □ 参加者として、会議の目的や検討場面、自機関としての役割を意識した発言・対応をしている □ 障害特性を踏まえた個人情報の取り扱い・保護を意識し、支援のための情報活用・共有をしている □ チームメンバーと役割分担・支援目標を共有し、協力して支援している	□ 必要なメンバーを会議に招集している □ 個別支援会議の構造を踏まえて、会議を開催している □ 司会者として、時間の管理、目的の確認、意見の交流、結論と課題の整理等により、スムーズな進行をしている □ 事例提供者として、個人情報に配慮した資料をまとめ、わかりやすく説明している □ 記録者として、ホワイトボード等を活用して情報を整理し、情報共有を図ることがしている □ 障害特性を踏まえた個人情報の共有・活用について、支援目標に沿って判断している □ チームメンバーの機関特性を活かした役割分担に基づき、支援している	□ 相談支援従事者や関係機関等が個別支援会議の開催・運営等により、チーム支援を実践しているように、助言・指導している	
		対象者とともに、リアルニーズに基づく支援計画を適切に作成し、説明している	□ 支援計画が対象者自身のものであることを理解し、意識している □ 対象者とともに作成するリアルニーズに基づく支援計画の必要性を理解し、意識している □ 計画作成に際し、ストレングスの活用、エンパワメントを意識している □ 支援の効果測定の時期を設定することの必要性を理解し、意識している □ フォーマル、インフォーマルの社会資源の利用に向けて、調整している	□ ストレングスの活用、エンパワメントを意識したリアルニーズに基づく支援計画を、対象者の気づきを促しながら、その意思決定のもとに作成している □ 支援の効果測定の時期を適切に設定している □ 対象者等にわかりやすい表現で記載し、簡潔に説明している	□ 相談支援従事者や関係機関等が対象者とともにリアルニーズに基づく支援計画を適切に作成し、説明できるように、助言・指導している	

専門能力（知識・技術）	（インターベンション）	必要に応じて適切な介入をしている	<input type="checkbox"/> 介入（直接・間接）の必要性を理解し、意識している <input type="checkbox"/> 社会福祉援助技術を理解し、意識している <input type="checkbox"/> 対象者やチームメンバー等から必要な情報を継続的に収集し、状況に応じて、フットワーク軽く、柔軟に対応している	<input type="checkbox"/> 障害特性を踏まえた生活全般の支援を視野に入れ、主体的に介入している <input type="checkbox"/> ストレngths視点に立った介入（直接・間接）を行い、本人及び家族や支援者等の力を高めている <input type="checkbox"/> 対象者や状況に合わせて、社会福祉援助技術を柔軟に活用している	<input type="checkbox"/> 相談支援従事者や関係機関等が適切な介入がしているように、助言・指導がしている
		適切なリスクマネジメント、緊急対応をしている	<input type="checkbox"/> リスクマネジメント、緊急対応の必要性を理解し、意識している <input type="checkbox"/> 緊急対応時の視点（安全確保と人権擁護）や対応のタイミングを理解し、意識している <input type="checkbox"/> 対象者が危機状況に至る可能性を意識している <input type="checkbox"/> 安全に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実にし、必要に対応をしている <input type="checkbox"/> 緊急時の個人情報の取り扱いを理解している	<input type="checkbox"/> チームメンバーとともに、危機を予測し、連携して未然防止を図るとともに、早期発見・早期対応の体制を整えている <input type="checkbox"/> 緊急時に、的確なアセスメントによる迅速・適切な対応をしている <input type="checkbox"/> 緊急時の個人情報の扱いについて、的確に判断している	<input type="checkbox"/> 相談支援従事者や関係機関等が適切なリスクマネジメント、緊急対応ができるように、助言・指導している <input type="checkbox"/> 平常時の未然防止、抜本的改善、再発防止を組織的に推進している <input type="checkbox"/> 地域におけるリスクマネジメント及び緊急対応体制の整備に取り組んでいる
		状況確認（モニタリング）	<input type="checkbox"/> 適切に支援の状況・効果を確認し、その結果を説明している <input type="checkbox"/> 支援の状況・効果の確認の必要性を理解し、意識している <input type="checkbox"/> 目標の達成状況を把握し、対象者と共有している	<input type="checkbox"/> 目標の達成状況を分析し、効果の背景要因を捉えることがしている <input type="checkbox"/> 背景要因を踏まえて、対象者と共に、目標及び支援計画を再設定している <input type="checkbox"/> チームメンバー等に対して、状況・効果の確認結果をわかりやすく説明している	<input type="checkbox"/> 相談支援従事者や関係機関等が適切に支援の状況・効果を確認し、その結果を説明できるように、助言・指導している
		事後評価（エバリュエーション）	<input type="checkbox"/> 生活全体の状況を捉え、終結の要否を適切に判断している <input type="checkbox"/> 生活全体の状況を捉えた事後評価の必要性を理解し、意識している	<input type="checkbox"/> 現状とともに、先を見据えて、終結の要否を適切に判断している <input type="checkbox"/> 対象者やチームメンバーと終結の判断の要否を共有している	<input type="checkbox"/> 相談支援従事者や関係機関等が生活全体の状況を捉え、終結の要否を適切に判断できるように、助言・指導している
		終結（ターミネーション）	<input type="checkbox"/> 適切に支援を終了している <input type="checkbox"/> 終結の必要性を理解し、意識している <input type="checkbox"/> セルフマネジメントの意義を理解し、意識している	<input type="checkbox"/> 対象者やチームメンバーと終結の合意をしている <input type="checkbox"/> セルフマネジメントに向けた支援を行っている <input type="checkbox"/> 支援終了後も、対象者が安心して暮らせるように、環境設定をしている <input type="checkbox"/> 対象者に対し、終結後の支援について情報提供している	<input type="checkbox"/> 相談支援従事者や関係機関等が適切に支援を終了しているように、助言・指導している
	（地域マネジメント）	地域づくり	<input type="checkbox"/> 地域の障害福祉施設や活動団体等の多機関ネットワークの必要性を理解し、意識している <input type="checkbox"/> 日ごろの支援を通じて、個人を支援するためのネットワークをつくっている <input type="checkbox"/> 地域ニーズを充足するために、区障害者自立支援協議会や地域の関係機関・団体等によるネットワークの必要性を理解し、意識している	<input type="checkbox"/> 個人を支援するためのネットワークを活用している <input type="checkbox"/> 日ごろの支援から生まれた個人を支援するためのネットワークを、他の対象者の支援に活用している <input type="checkbox"/> 個別の支援では充足できないニーズ（地域ニーズ）を満たすために、区障害者自立支援協議会や地域の関係・団体等のネットワークを活用している	<input type="checkbox"/> 相談支援従事者や関係機関等が有効なネットワークを構築できるように、助言・指導している <input type="checkbox"/> 地域ニーズを充足させるために、区障害者自立支援協議会の意義等を関係者に伝え、区域の重要なネットワークとして形成、発展させている <input type="checkbox"/> ネットワークに各機関が主体的に関わり、区域全体で支えあう力が向上、継続するように支援している
		地域ニーズを適切に把握し、働きかけをしている	<input type="checkbox"/> 社会資源の個人・家族・地域にとっての必要性を理解し、意識している <input type="checkbox"/> 個別の支援では充足できず、複数の相談に共通するニーズを地域ニーズとして捉え、働きかけることの必要性を理解し、意識している	<input type="checkbox"/> 個別の支援課題を収集し、地域ニーズとして顕在化している <input type="checkbox"/> 地域ニーズに対して、チームで働きかけている	<input type="checkbox"/> 相談支援従事者や関係機関等が地域ニーズを適切に把握し、働きかけられるように、助言・指導している <input type="checkbox"/> 区障害者自立支援協議会や各種事業等を活用し、地域ニーズに働きかけている <input type="checkbox"/> 広域に渡る地域ニーズについては、区障害者自立支援協議会を活用し、市障害者自立支援協議会等に課題提起している
	セルフ・チームマネジメント	自己管理している	<input type="checkbox"/> 自己管理の必要性を理解し、意識している <input type="checkbox"/> 上司等の助言を受けながら、自分自身の健康管理をしている	<input type="checkbox"/> 主体的に自分自身の健康管理をしている	<input type="checkbox"/> 自己だけでなく、相談支援従事者や関係機関等の健康管理に配慮している
		自己研鑽に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> OJTやOff-JTの必要性を理解し、意識している <input type="checkbox"/> 様々なスーパービジョンの機会を知り、活用している <input type="checkbox"/> 仲間と疑問点や悩みを相談したり、共有し合いながら、自らのスキルアップを意識している <input type="checkbox"/> スキルアップを意識して研修や勉強会、事例検討会等に参加している <input type="checkbox"/> 専門職団体や関連学会等に所属する意味を理解している <input type="checkbox"/> 仕事上必要な専門誌や専門書などを定期的に読み、最新の情報を入手し、更新している	<input type="checkbox"/> 主体的に必要な研修等に参加し、その成果を他の職員に伝えるときは、職場で活用している <input type="checkbox"/> 事例提供者となり、そこで得た気づきを業務に生かしている	<input type="checkbox"/> 相談支援従事者や関係機関等が自己研鑽に取り組むことができるように、その方法を助言・指導するとともに、自己研鑽を推奨できる環境を整える <input type="checkbox"/> 実践を論文としてまとめている <input type="checkbox"/> 職場内外全体のスキル向上に配慮し、学会等での業務の成果発表や研修会での講師等を担っている
		メンバーシップ・リーダーシップを発揮している	<input type="checkbox"/> 職場内で学び合い、育ちあうことの必要性を理解し、意識している <input type="checkbox"/> 日ごろから自分が困っていることを周りに伝え、協力を求めている	<input type="checkbox"/> 互いの課題や悩みに気づき、支え合える環境をつくっている <input type="checkbox"/> 業務改善提案等を行い、職場内の課題解決や改善に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 相談支援従事者や関係機関等がメンバーシップ、リーダーシップを発揮できるように、助言・指導している <input type="checkbox"/> 広い視野をもち、専門的にみた業務のあるべき方向性に向けた改善に取り組んでいる <input type="checkbox"/> 相談から把握した課題対応策や地域特性等を職場内外で共有し、相談対応の組織的向上を図っている <input type="checkbox"/> 職場内外の同職種、他職種の連携・調整におけるリーダーシップをとっている
		地域（事業所内外）で人材育成を実施している	<input type="checkbox"/> 人材育成の必要性を理解し、意識している <input type="checkbox"/> スーパービジョンやファシリテーション、コンサルテーション等の人材育成に関わる技法を理解し、意識している	<input type="checkbox"/> 個別支援会議や事例検討会等でファシリテーションやコンサルテーション等の技法を活用している	<input type="checkbox"/> スーパービジョンやコンサルテーション等の技法により、相談支援従事者や関係機関等を支え、教育・育成している <input type="checkbox"/> 職場内外で対象者の経験に応じた効果的な人材育成の環境を整えている <input type="checkbox"/> 研修の企画・実施、コンサルテーション等により、所属する組織を超えて、地域全体の相談支援の力量の向上を図っている